

政策調査情報

連合北海道総合政策局

今年4月からの「北海道ケアラー支援条例」の施行を受けて 「ケアラー支援の実情と課題」と題した学習会を開催

連合北海道地域福祉・社会保障研究会は、11月5日（土）に北海道地方自治研究所との共催で、「ケアラー支援の実情と課題」と題して、えべつケアラーズ代表／北海道ヤングケアラー相談サポートセンターセンター長の加藤高一郎さんを講師に招いて、学習会を開催した。

● そもそも「ケアラー」ってどんな人？

講師の加藤さんは2015年から、介護や子育てをしている家族を支える団体「えべつケアラーズ」を立ち上げ、支える人を支えてきました。

ケアラー(careをする人)とは、こころやからだに不調のある人の「介護」「看病」「療育」「世話」「気づかい」など、ケアに必要な家族や近親者・友人・知人などを無償でケアする人の総称です。ケアは介護、障がいや病気の家族のお世話、アルコール依存や薬物・ギャンブルなどの問題を持つ家族の話し相手や見守り、親の通訳など多岐にわたります。



講師の加藤高一郎さん

「ヤングケアラー」とは、家族にケアを要する人がいて、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話・介護・感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもの総称です。

● ヤングケアラーと呼ばれる子どもたちの特徴

- ・自分がヤングケアラーだという自覚がないので、自分から助けを求めることが難しい。
- ・家庭のことを外に言いたくないし、隠さなくちゃ・・・と思っていることもある。
- ・家族をケアすることを否定されたくない、負担になっていても大切な家族のためにケアしたい。
- ・ケアすることを否定されると、自分がしてきたことを否定されたように思いがち。

● ヤングケアラー支援での大切なこと

「ヤングケアラー」を見つけたオトナは、「何とかしなくちゃ！助けなきゃ！」と前のめりになりがちですが、子どもは信頼できると思ったオトナにしか心を開きません。社会福祉士、ケアマネ、先生、弁護士…肩書で相手を信用するのはオトナの世界。つかず離れず TikTok や YouTube など子どもの好きそうな話題を探って雑談を繰り返す中で、ぼつぼつと話し始める子もいます。



真剣に聞き入る参加者のみなさん

緊急時は別として、支援に踏み切るのか、今は見守るのか、その子がどうしてほしいのかをちゃんと聞きましょう。家庭内の介護や医療、経済問題など多職種横断的支援が求められます。特に子どもと家族の関係には徹底した配慮が必要です。大人が気づいてあげましょう、大人が手をさしのべてあげましょう、大人が見守ってあげましょう。

● 北海道ヤングケアラー相談サポートセンター（通称:ヤンサポ）

道から委託を受けた「北海道ヤングケアラー相談サポートセンター（通称:ヤンサポ）」は、フリーダイヤルの相談窓口、メール相談、ヤングケアラー対象のオンラインサロンなどを開設しています。（匿名OK・大人からの相談も可。）

また、えべつケアラーズでは、ケアラーズカフェ（第2水曜、第4日曜の午前）、オンラインケアラーズカフェ（第2・第4日曜11:00~12:00）、オンラインケアラーズバー（最終金曜23:00~）なども開設しています。詳しくは、えべつケアラーズのフェイスブックをご確認ください。

北海道ヤングケアラー相談サポートセンター

フリーダイヤル 0120-516-086

月曜日～金曜日8:45～17:30

（祝日及び12/29～1/3までの期間を除く。）

江別市東野幌本町7-5(セリオ野幌店内)

※来所相談はできるだけ事前予約をお願いします
メール相談:

hokkaido.young.carer2022@gmail.com

ショートメール専用:080-9612-1247